

令和元年6月18日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26380476

研究課題名（和文）企業家と共同企業家：市場と問題解決コミュニティにおける社会問題の解決

研究課題名（英文）Entrepreneurs and joint-entrepreneurs: Social problem-solving in the market and in the problem-solving community.

研究代表者

稲葉 祐之（Inaba, Yushi）

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：00363995

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：共同企業家概念に基づく社会問題の解決について、学会発表、論文出版、書籍の出版を行った。さらに問題解決コミュニティを通じた社会問題の解決についても、学会発表および書籍の出版を行った。そのほか、組織変革のリーダーシップや、近代企業家の輩出プロセスについての共同研究を行った。また、コーポレート・ガバナンスに関する教科書の共著での執筆を行い、出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、共同企業家と問題解決コミュニティという枠組みによる社会問題の解決の事例研究を行ったことである。「共同企業家・中核組織・問題解決コミュニティ」という問題解決構造とそのプレイヤー間の「関係様式（協働モード）」が十分に適用可能かどうかを検証し、精緻化をおこなった。

第二に、このようにして得られた社会問題の共同問題解決をおこなう共同企業家と、市場でのソリューションの売買を通じて問題を解決する企業家との比較をおこなったことである。比較によって問題解決コミュニティの中で問題解決活動をおこなう共同企業家の活動あるいは問題解決者としての企業家が、どのように位置づけられるかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Conference presentation, journal article publication, book chapter publication on social problem-solving from joint entrepreneurship perspective were made. Conference presentation and book chapter publication on social problem-solving through problem-solving community were also made. Additionally, joint research on leadership for organizational reform and research on the emergence process of modern entrepreneurs in Japan and so on were published. A textbook on corporate governance was co-authored and published.

研究分野：経営組織論

キーワード：社会問題の解決 ソリューション 問題解決コミュニティ 社会企業家 企業家

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者の前研究である『複雑な問題の解決者としての企業家：地域再生と企業家』(基盤研究(C)研究課題番号：22530376)の拡張としておこなわれる。前研究では地域の衰退という社会問題とその解決に焦点をあて、北海道小樽市、滋賀県長浜市、岡山県倉敷市、徳島県上勝町、鹿児島県鹿屋市といった日本の衰退地域の複数の再生事業について、問題の解決(すなわち地域再生)に果たす企業家的な人々の役割を調査した。とりわけ市場ベースでは不可能な地域再生事業を、「共同企業家(=自らの属する組織を超えて協働する複数の企業家的な人々)」が、関係者とともに問題解決コミュニティを形成し、株式会社やNPO、任意団体といった問題解決の中核となる中核組織を設立・運営しておこなわれる問題解決のプロセスを記述・分析した。

前研究の成果は、以下の通りであった。第一に、市場取引でも、政府でも、慈善でも解決し得なかった地域再生という社会問題の解決を、共同企業家と問題解決コミュニティを中心とする、(持続性を持った)事業を通じておこなう共同問題解決で説明するための一つの枠組みを与えたことである。第二に、事例研究を通じて、その問題解決コミュニティ内に特有な共同企業家の活動や共同問題解決を促進するような関係者間の関係様式について詳細に分析を加え、企業家的な人々による「複雑な問題の共同解決」という枠組みで説明した点である。第三に、複雑な問題を共同解決する企業家という共同企業家概念を提示することで、問題解決者としての企業家という視点から(社会企業家を含む)企業家を分析した点である。

これらの成果は学会発表や論文を通じて報告され、共同企業家という概念、そして複雑な問題の共同解決という枠組みの認知向上に資した。稲葉(2014)は前研究の成果をまとめた論文だが、共同企業家という企業家の一類型を説明するものとして企業家論の書籍に所収されるなど、企業家論研究の分野への一定の貢献を果たしている。

一方で、前研究は不十分な点もあった。社会問題は、「ソリューションの取引」、「権力の行使」、「贈与」、「共同問題解決」という4つの解決原理を用いた「市場」、「政府」、「慈善」、「問題解決コミュニティ」というツールを用いて解決される(稲葉ほか, 2010; 稲葉, 2011)。しかし、前研究は、対象とする社会問題を地域再生という特定領域に限定しており、問題解決手法も問題解決コミュニティを通じた事業による解決に限定していた。そのため、より広い社会問題一般を取り扱おうとする場合には、枠組みの外部妥当性の拡大が課題となっていた。以上が、本研究を推進する上での学術的背景であり、本研究はこの現到達点を起点として計画された。

2. 研究の目的

本研究は社会における「社会問題の解決」を分析単位におき、企業家の果たす役割を中心に社会問題の解決過程を解明する理論および実証研究である。本研究ではとりわけ、市場を通じてソリューションを提供する企業家、および問題解決コミュニティを通じてソリューションを提供する共同企業家(Inaba, 2009)のそれぞれの問題解決活動に焦点をあてる。従来からの営利・非営利、社会的ミッションの有無、官・民といった二分法的視点ではなく、企業家的な人々の問題解決活動を記述することで、これまで分断して分析されてきた社会問題の解決という現象を、統一的に説明する。「社会において、いかなる主体が、社会問題をどのように解決するのか」を分析することで、「社会の中でいかに社会問題は解決できるのか、あるいはされるべきか」について理論的・実践的含意を提示する。

参考文献

- Inaba, Yushi, 2009. *Japan's New Local Industry Creation: Joint Entrepreneurship, Inter-organizational Collaboration, and Regional Regeneration*. North Andover: Alternative Views Publishing.
- 稲葉祐之, 2011. 「社会問題の解決原理と企業家：問題解決者としての企業家」, 『日本ベンチャー学会第14回全国大会 報告要旨集』, 日本ベンチャー学会, 50-53頁.
- 稲葉祐之・井上彦彦・鈴木竜太・山下勝, 2010. 『キャリアで語る 経営組織：個人の論理と組織の論理』, 有斐閣.
- 稲葉祐之, 2014. 「共同企業家」, 宮本又郎・加護野忠男+企業家研究フォーラム 編, 『企業家学のすすめ』, 有斐閣, 248-262頁

3. 研究の方法

上述の学術的背景を前提に、本研究は4年間というスパンでデザインされ、スケジューリングされている。本研究では、1. 問題解決コミュニティを通じて社会問題のソリューションを提供する社会企業家と、2. 市場において社会問題のソリューションを提供する企業家

という2つの問題解決プロセスを分析した。

本研究は、事例分析に基づく定性的研究である。調査を通じて、市場と問題解決コミュニティにおいて、企業家を中心に複雑な社会問題の解決プロセスがいかに進められるかを記述し説明する。本研究は4年のタイムスパンでデザインされ、スケジュールされた。本研究では「問題解決」を鍵概念に、1. 問題解決コミュニティを通じて社会問題のソリューションを提供する社会企業家の問題解決プロセスと、2. 市場において社会問題のソリューションを提供する企業家の問題解決プロセスとを比較分析した。その際には、共同企業家・中核組織・問題解決コミュニティの活動とソリューション生成に必要なリソースとイノベーションという二つの要素に注目して分析を進めた。

4. 研究成果

2014年度

本研究では「問題解決」を鍵概念に、1. 問題解決コミュニティを通じて社会問題のソリューションを提供する社会企業家の問題解決プロセスと、2. 市場において社会問題のソリューションを提供する企業家の問題解決プロセスとを比較分析する。その際には、共同企業家・中核組織・問題解決コミュニティの活動とソリューション生成に必要なリソースとイノベーションという二つの要素に注目して分析を進めた。まず1.については、計画初年度は前研究での分析枠組みをそのままに、地域再生以外の問題解決を取り扱うための枠組みを。その成果として、下記論文を執筆した。

稲葉祐之, 2014. 「共同企業家：複雑な問題の解決者としての企業家」, 宮本又郎・加護野忠男+企業家研究フォーラム 編, 『企業家学のすすめ』, 有斐閣, 248-262頁.

次に2. に関して、市場における社会問題解決の分析枠組み構築のための文献レビューをおこない、下記の学会発表を行った。

稲葉祐之, 2014. 「社会問題のソリューション生成プロセス:市場化されたソリューション」, 『組織学会 2014年度研究発表大会』(北海道大学), 2014年6月22日.

稲葉祐之, 2014. 「社会問題解決のソリューション:結核の事例」, 『2014年度企業家研究フォーラム年次大会』(大阪大学中之島センター), 2014年7月19日.

2015年度

平成27年度は、1年間のサバティカル・リープが与えられ在外研究期間となったことから、関連する研究者の多さと資料の豊富さを勘案して研究拠点を英国に移した。この間は、日本での調査は行わず、理論研究を中心に進めた。まず2. に関しては、前年度に引き続き市場において社会問題のソリューションを提供する企業家の問題解決プロセスについてのレビューを継続した。また1. の企業同企業家と問題解決コミュニティによる問題解決に関しては、引き続き事例研究の範囲を地域再生からより広い問題に広げて分析を続けた。

2016年度

平成28年度前半は、引き続き在外研究期間となっていたことから、研究拠点となる英国において研究を継続した。この間は、著作の執筆を中心に研究を行い、研究論文1本(稲葉祐之, 2016. 「組織間共働と共同問題解決:倉敷チボリ公園プロジェクトの事例」, 『横浜経営研究』(横浜経営学会), 第37巻, 第1号, 337-356頁.)と書籍の分担執筆1章(稲葉祐之, 2016. 「社会問題の解決システム」, 加護野忠男・山田幸三編, 『日本のビジネスシステム:その原理と革新』, 有斐閣, 269-289頁.)がこの間の研究成果となった。また平成28年度後半は在外研究期間も終わったことから日本に帰国し、通常の研究教育体制に復帰した。この期間中は企業統治論の教科書に共著者として参加し、本研究に関連する企業と市場の提供する社会問題のソリューション、社会起業家や非営利組織の経営・ガバナンスに関する章について、執筆を行った。

2017年度

平成29年度は、著作の執筆を中心に研究を行い、組織のガバナンスに関する教科書を共同で執筆した(吉村典久・田中一弘・伊藤博之・稲葉祐之, 2017. 『企業統治』, 中央経済社. (ISBNコード 978-4502225116)236頁)。本書では非営利組織や社会企業の構造とガバナンスについて扱い、今研究での成果を盛り込み、本研究に関連する企業と市場の提供する社会問題のソリューション、社会起業家や非営利組織の経営・ガバナンスに関する章について、執筆を行った。また、共著の論文の執筆(吉澤さくら・稲葉祐之, 2017. 「業績回復を牽引する変革型リーダー:組織構成要素の変革プロセスモデル」, 『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社

会科学研究所), No. 84, pp. 67-92.) や、共同での学会発表(山田友理・稲葉祐之, 2017. 「近代企業家の輩出プロセスと類型化: 幕末・明治期の革新的企業家 46 人の分析」, 『2017 年度企業家研究フォーラム年次大会』(大阪大学中之島センター), 2017 年 7 月 16 日.) などを行うとともに、過去の科研費基盤研究の成果を対談の形で披露した(安田雪, 稲葉祐之, 2017. 「『天下の台所』に学ぶネットワークと豊かなまちづくり」, 『Culture, Energy & Life』(CEL), 第 117 号(November 2017), 8-13 頁.)。

2018 年度

平成 29 年度までに、予定された研究はおおむね完了した。平成 30 年度は、著作の執筆を中心に研究を行った。新たに社会問題の解決に関わる倫理的な消費を促進するエシカル商品に関して、そのようなエシカル商品のための有効なマーケティングに関して共著論文を執筆した。また、今後の新しい研究課題についての探索を行った。本年度の研究実績は以下の通りである。論文: 清野友紀・稲葉祐之, 2019. 「エシカル商品のマーケティング: 商品開発とエシカル商品固有のデメリット解消の戦略」『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社会科学研究所), No. 86, pp. 25-53. 学会発表: 山田友理・稲葉祐之, 2019. 「近代的企業家輩出プロセスと類型: 幕末・明治期企業家 46 人のキャリアパス分析」, 『第 8 回アントレプレナーシップコンファレンス』(首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス: 日本ベンチャー学会、日本中小企業学会、企業家研究フォーラム、ファミリービジネス学会共催), 2019 年 2 月 11 日。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

清野友紀・稲葉祐之, 2019. 「エシカル商品のマーケティング: 商品開発とエシカル商品固有のデメリット解消の戦略」『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社会科学研究所), No. 86, pp. 25-53. (Kinoyo, Yuki, and Yushi Inaba, 2019. Marketing Strategies of Ethical Products: Product Development and the Elimination of Their Disadvantages. *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute). No. 86, pp. 25-53 (in Japanese).)

吉澤さくら・稲葉祐之, 2017. 「業績回復を牽引する変革型リーダー: 組織構成要素の変革プロセスモデル」, 『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社会科学研究所), No. 84, pp. 67-92. (Yoshizawa, Sakura, and Yushi Inaba, 2017. A Transformational Leader to Lead Performance Recovery: A Process Model on the Reform of Four Key Organizational Elements. *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute). No. 84, pp. 67-92 (in Japanese).)

稲葉祐之, 2016. 「組織間共働と共同問題解決: 倉敷チボリ公園プロジェクトの事例」, 『横浜経営研究』(横浜経営学会), 第 37 巻, 第 1 号, 337-356 頁. (Inaba, Yushi, 2016. Interorganizational Collaboration and Joint Problem Solving: A Case of Kurashiki Tivoli Park Project. *Yokohama Business Review* (Yokohama Business Administration Society), Vol. 37, No. 1, pp. 337-356.)

LE, Ngoc Liem, and Yushi Inaba, 2015. Measuring Service Quality in the Hospitality Industry: A Case Study in Hue City, Vietnam. *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute). No. 80, pp. 5-35.

寺阪今日子・稲葉祐之, 2014. 「『ホスピタリティ』と『おもてなし』サービスの比較分析: 『お

もてなし』の特徴とマネジメント」、『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社会科学研究所), No.78, pp.85-120. (Terasaka, Kyoko, and Yushi Inaba, 2014. The Comparison of Hospitality and Japanese Hospitality 'Omotenashi': Characteristics and Management of Omotenashi. *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute). No.78, pp.85-120 (in Japanese).)

〔学会発表〕(計 4件)

山田友理・稲葉祐之, 2019. 「近代的企業家輩出プロセスと類型: 幕末・明治期企業家 46 人のキャリアパス分析」, 『第 8 回アントレプレナーシップコンファレンス』(首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス: 日本ベンチャー学会、日本中小企業学会、企業家研究フォーラム、ファミリービジネス学会共催), 2019 年 2 月 11 日.

(Yamada, Yuri and Yushi Inaba, 2019. *Processes of the Emergence of Modern Entrepreneurs and its Categorization: An Analysis on Career Paths of 46 Innovative Entrepreneurs in the Bakumatsu and the Meiji Era*. 8th Entrepreneurship Conference (Japan Academic Society for Ventures and Entrepreneurs, Japan Academy of Small Business Studies, Forum for Entrepreneurship Studies, and Japan Academy of Family Business), Akihabara Satellite Campus, Tokyo Metropolitan University, Tokyo, Japan, 2019/02/11 (in Japanese).)

山田友理・稲葉祐之, 2017. 「近代企業家の輩出プロセスと類型化: 幕末・明治期の革新的企業家 46 人の分析」, 『2017 年度企業家研究フォーラム年次大会』(大阪大学中之島センター), 2017 年 7 月 16 日.

(Yamada, Yuri and Yushi Inaba, 2017. *Processes of the Emergence of Modern Entrepreneurs and its Categorization: An Analysis of 46 Innovative Entrepreneurs in the Bakumatsu and the Meiji Era*. Forum for Entrepreneurship Studies Annual Conference 2017, University of Osaka, Osaka, Japan, 2017/07/16 (in Japanese).)

稲葉祐之, 2014. 「社会問題解決のソリューション: 結核の事例」, 『2014 年度企業家研究フォーラム年次大会』(大阪大学中之島センター), 2014 年 7 月 19 日.

(Inaba, Yushi, 2014. *Solutions for Social Problems: A Case of Tuberculosis Treatment*. Forum for Entrepreneurship Studies Annual Conference 2014, University of Osaka, Osaka, Japan, 2014/07/19 (in Japanese).)

稲葉祐之, 2014. 「社会問題のソリューション生成プロセス: 市場化されたソリューション」, 『組織学会 2014 年度研究発表大会』(北海道大学), 2014 年 6 月 22 日.

(Inaba, Yushi, 2014. *An Emerging Process of Solutions for Social Problems: A Case of a Marketized Solution*. The Academic Association for Organizational Science Annual Research Conference 2014, 2014/06/22, Hokkaido University (in Japanese).)

〔図書〕(計 3件)

吉村典久・田中一弘・伊藤博之・稲葉祐之, 2017. 『企業統治』, 中央経済社.(ISBN コード 978-4502225116) 236 頁

稲葉祐之，2016。「社会問題の解決システム：社会企業家と問題解決コミュニティ」，加護野忠男・山田幸三編，『日本のビジネスシステム：その原理と革新』，有斐閣，269-289 頁。(ISBNコード 978-4641164918)

稲葉祐之，2014。「共同企業家：複雑な問題の解決者としての企業家」，宮本又郎・加護野忠男+企業家研究フォーラム 編，『企業家学のすすめ』，有斐閣，248-262 頁。(ISBNコード 978-4-641-16434-5)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://researchers.icu.ac.jp/icuhp/KgApp?kyoinId=ymdggygsggy>

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。